

第7回 交流会

ことばを教え、学ぶことを俯瞰してみよう -私の言語教育を社会構造・経済構造の中で捉え直す-

言語教師は、学習者に教室でことばを教えることを仕事としています。ことばを教えるという仕事に関し、教え方や学習者の様子について語る機会が多いですが、ことばを教えるという仕事が社会構造や経済構造の中でどのような意味をもち、どのような役割を果たしているかについて語る機会は少ないのではないのでしょうか。

第7回交流会では、言語教育を取り巻く社会構造及び経済構造について、参加者同士でのグループワークをとおして話し合います。学習者は、どこからどのようなルートを辿り教室に集まっているのか。所属する教育機関は社会の中でどのような位置づけにあるのか。そして、それらはどのような社会構造や経済構造の中にあるのか。さらに、学習者の社会的背景、そして教育機関の背景や位置づけに応じて、私たち言語教師の仕事はどのような意味をもつのか。それは教える内容や教え方にどのように反映されているのか。私たちがもしかしたら無自覚にもつ学習者に対する姿勢に何か影響があるのか。

以上のような論点で話し合うことをとおし、言語教育と社会構造及び経済構造との関係性に対して批判的気づきを得る機会を作ります。

日時

7月13日(土)
14:00~ 16:00

会場

早稲田大学早稲田キャンパス
22号館2階207教室

参加資格

予約不要、参加費無料、会員に限らずどなたでもご参加いただけます
当日、直接会場にお越しください

★「交流会」について

言語文化教育研究学会は2018年度から「交流会」を始めました。交流会では、多様な背景を持つ参加者との、対等な関係性における相互構築的な対話をめざします。学会非会員でも自由に参加、発題ができます。2019年度は、5月、7月、9月、11月、1月を予定しています。



お問い合わせ

言語文化教育学会 交流委員会

MAIL interact@alce.jp

座談会形式なので、他の参加者と気軽に話せます